

テーマ (I) 小説 -----

- 1月 ハンガン『ギリシャ語の時間』(晶文社、2017年)  
2月 ケン・リュウ『紙の動物園』、時間的余裕があれば『もののあはれ』も  
(ともにハヤカワ文庫、2017年)

テーマ (II) 哲学 -----

- 3月 國分功一郎『中動態の世界 意志と責任の考古学』(医学書院、2017年)

テーマ (III) 世界経済 -----

- 4月 新型コロナウイルス感染防止のため中止  
5月 劉慈欣『三体』(早川書房、2019年)  
6月 マルクス・ガブリエル、マイケル・ハート、ポール・メイソン、斎藤幸平  
『未来への大分岐ー資本主義の終わりか、人間の終焉か?』  
(集英社新書、2019年)

テーマ (IV) さまざまな歴史 -----

- 6月 前田勉『江戸の読書会』(平凡社ライブラリー、2018年)  
7月 藤原辰史『戦争と農業』(インターナショナル新書、2017年)

テーマ (V) 日本社会の一断面 -----

- 9月 武田砂鉄『紋切型社会』(原著2015年、新潮文庫2019年)

テーマ (VI) インバウンド -----

- 10月 内田宗治『外国人が見た日本ー「誤解」と「再発見」の観光150年史』  
(中公新書、2018年)  
11月 イザベラ・バード『日本奥地紀行』(平凡社ライブラリー、2000年)